



祭典合唱団ニュース

ひろしま

NO.11
2021年10月31日
発責：実行委員会

合唱団員 紹介コーナー

私も歌ってます
よろしくお願ひしま〜す！

吉野満江さん(A)



TFコーラスに所属して歌っています。小学校の教師を30年していました。退職後当時は同好会だった「歌う会」に入れてもらい今につながっています。

5歳の時、被爆しました。当時母親が千田町の広島電鉄の食堂で働いて、「あの日」は私を職場に連れて行っていたのです。建物の陰で遊んでいたお陰で無傷でしたが意識を失っていたものを、戦争中ですから広電にも女学生の車掌さんが働いて、その方が連れ出してくれてくれたのです。母は大

やけどをしていました。私と一緒に御幸橋に逃げました。その後母は似島へ運ばれ、私は広電で2〜3日過ごしていたところを呉に住む叔母夫婦が探しに来てくれて、その後は呉で育ちました。鉄砲町の自宅で被爆した父は焼けた家の下敷きになり亡くなっていました。

このような被爆体験を退職婦人教職員の会の活動として大阪の小学生の修学旅行で「語り部」として10年続けています。その時に子どもたちに考えて欲しくて、最初に「青い空は」を歌ってからお話をします。そうすると話を聞いてくれた子どもたちがお礼の歌として「ヒロシマのある国で」を歌ってくれます。感謝します。

2005年の被爆60年の「日本のうたごえ祭典」で「炎の歌」を歌いました。正に実体験との思いで強く印象に残っています。被爆76年にまた歌で参加できることが感無量で嬉しく幸せに思います。歌われる数々の歌の素晴らしさと言ひ、指導される先生方の豪華さと言ひ、レッスンがとても楽しいです。「ひろしまへ」「青い空は」「アメイジング・グレイス」は是非とも歌いたと思っています。先日の「抱きしめよう」のレッスンではあまりに素晴らしい歌声に思わず拍手してしまいました。

孫が7人いますが、「ひろしまへ」は若い人たちへのメッセージになると考えています。

これまで全国の祭典に参加させてもらって楽しませてもらいましたから、今度は全国の皆さんを広島にお迎えして楽しんで頂くために頑張りたいと思います。チケットも広めたいと思っています。

本番指揮者に導かれ 思いを表現する

祭典が近づき、本番指揮者に「指導していただきレッスンが続いています。」

10月24日は、寺沢希先生をお迎えしてのレッスン会でした。今年5月、コロナ

感染者の数が拡大傾向にある中で、感染防止対策を徹底しながら開催した西日本

合唱講習会以来、祭典合同合唱団のレッスンには初め

ておいでいただきました。寺沢先生のレッスンは、励ましと賞賛の言葉がいっぱいです。

思うように歌えない時、つい「すみません」という言葉が出てしまいますが、先生は、「練習で謝るのは禁止！勇気をもって歌いましょう」と具体的な方法を教えてくださり、うまくい

くとすぐさま「オッキー！自信をもって」とお褒めのことば。

「いい音楽じゃないですか。とてもよかったです。」「パーフェクト！」「悪くない、もつとできる。」「……こんな言葉に励まされていたかな

ら、「大地讃頌」の世界に足を踏み入れていきます。合唱組曲「土の歌」全体

中でのこの曲の位置づけ、調性やブルースの位置や歌詞の内容からも「曲を掘りつくし」て指導してくださっているのだと思

いました。



寺沢先生レッスン風景

先生の要求される演奏に近づくアプローチの方法が、実際に歌われながら、あの手この手で示されます。「吸った息が出ない。ブルースの準備を！」「次の表情のためのブルース」「どう吸うかで、その後の表情が違ってくる」「オーケストラと歌うのだから子音が遅れるとかき消されてしまう。フライングするつもりで歌おう。」「と。

続く三上先生のレッスンでも、曲の深い解釈に基づいた細かいところへの具体的な指導が続きます。自分たちの思いを歌で表現する方法を教えてください、平和や憲法への思いが深まっていくようです。

次回は、練習で教えていただいたことにさらに磨きをかけていきたいと思います。本番がとても楽しみです。



三上先生レッスン